

平成29年度 島根県技術士会 新年例会フォトレポート



平成30年1月27日
(土)、松江エクセルホテル東急(松江市朝日町)において、平成29年度島根県技術士会新年例会を開催しました。
全会員327名のうち、92名の出席がありました。



大嶋研究部会長による挨拶の後、研究部会の各専門分科会から1年間の活動報告と成果の発表がありました。



水資源・水環境分科会からは、大掛技術士により、松江市内を流れる山居川、忌部川、京橋川の水質について、研究成果の報告がありました。



庭園文化研究分科会からは、林技術士により、松平不昧公が始祖といわれている出雲流庭園について、研究成果の報告がありました。



今福線研究分科会からは、嘉藤技術士により、拡がり続ける遺構今福線の魅力について、研究成果の報告がありました。



生物多様性研究分科会からは、北村技術士により、「なぜ雲南市はコウノトリに選ばれたのか」をテーマとした研究成果の報告がありました。



本年度新たに立ち上がった島根県B級遺産研究分科会からは、松浦技術士により、分科会の活動内容と、今年度のB級遺産認定施設の概要について報告がありました。



防災部会からは、江角技術士より、激甚災害が発生した被災地の現状の報告や、本会が災害時に取り組むべき方向性について提言がありました。



また、個人研究として、井上技術士により、核分裂エネルギー技術への向き合い方について発表がありました。



同じく、個人研究として、吉田技術士から、出雲国風土記記載の測量データの解釈と題して、郡家と山の位置関係などについて発表がありました。



さらに、篠田技術士から青年部が実施した「夏休み親子企画 ダムについて学ぼう」の結果報告がありました。



最後は、木佐会長の挨拶で閉会しました。



懇親会には会員66名が出席し、長嶺副会長の挨拶、歳男の槇原技術士による乾杯で開宴しました。職場、職種、役職を超えて、相互の情報交換の場となり有意義な時間を過ごしました。